

北風吹き
断つ
沙漠
の路

第二章以下本章までは、北京出發後の記事にして、即ち此旅行の目的たる新疆省に到る迄の前提とす。或は之を省略せんと欲したりしも、鶏助の感之を棄つるに忍びずして茲に載することとせり。讀者幸に其冗漫なるを咎むる勿れ。

第五章 新疆省の旅行

第一節 安西(甘肅省)より哈密(新疆省)に到る

(安西より猩猩峽に至る間は尙ほ甘肅省内に屬するも便宜本章に收む)

一 沙漠中風雪に遭ふ

準備既に整ひて、安西を發せしは、一月二十日午後五時なりとす。北風吹き断つ沙漠の路、夕陽將に沒せんとす新疆の邊。復た胡笳の人を惱殺する無しと雖も、獨り北斗を恃むの旅情轉た如何。疏勒河の緩なる淺き流は、蜿蜒前途に横はりて、河幅は一千米突に餘り有るも水幅僅に三十米突に足らず。鞭聲肅々一蹴して過ぎ、石窰子(人家僅に二戸)を経て二十一日午前五時白墩子(臺墩子と稱す)に着す。行程十一里餘。

白墩子は人家僅に七八戸、外に兵卒十名を屯す。附近一帶は沙丘の連亘して、展